

# スマートシティ実装計画

愛知県 岡崎市  
岡崎スマートコミュニティ推進協議会

令和7年3月



## 2. スマートシティ実装に向けた資金計画

(事業費:千円)

スマートシティ実装化支援事業により実施する事業								
事業名	事業概要	実装する 都市サービスの内容	事業主体	事業期間		交付対象 事業費	うち	
				開始年度	終了年度		国費分	コンソ負担分
②土地利用促進スマートデータ提供事業	土地利用主体へのスマートデータ提供	スマートデータ提供の仕組み	岡崎スマートコミュニティ推進協議会	R6	R8	70,000	70,000	0
①まちづくり短周期PDCA支援事業	スマートデータ活用で目標設定・モニタリング	目標管理を行えるダッシュボード実装	岡崎スマートコミュニティ推進協議会	R6	R8	15,000	15,000	0
計						85,000	85,000	0

コンソーシアム単独負担で実施する事業								
事業名	事業概要	実装する 都市サービスの内容	事業主体	事業期間		全体 事業費	うち	
				開始年度	終了年度		国費分	コンソ負担分
①市民生活スマート化事業	市民生活をスマート化する実証・実装事業	オープンデータサイト 町内会アプリ等	岡崎市	R6	R8	56,500		56,500
②行政スマート化事業	行政活動をスマート化する実証・実装事業	道路異常箇所発見・ 人流データ取得	岡崎市	R6	R8	10,800		10,800
③モビリティ導入事業	モビリティ導入の実証・実装事業	MaaS活用等	岡崎市	R6	R8	22,800		22,800
計						90,100		90,100
合計						175,100	85,000	90,100

(参考)その他の国の補助事業により実施する事業								
事業名	事業概要	補助事業名(所管省庁名)	事業主体	事業期間		全体 事業費	うち	
				開始年度	終了年度		国費分	コンソ負担分
						0		
						0		
						0		
						0		
計						0	0	0

### 3. スマートシティ実装に向けた資金計画(年次計画)

(事業費:千円)

スマートシティ実装化支援事業により実施する事業							
事業名	事業主体	事業期間		交付対象 事業費	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		開始年度	終了年度				
土地利用促進スマート データ提供事業	岡崎スマートコミュニティ推進協 議会	R6	R8	70,000	35,000	35,000	
まちづくり短周期PDCA支 援事業	岡崎スマートコミュニティ推進協 議会	R6	R8	15,000	0	15,000	
計				85,000	35,000	50,000	0
うち、国費額				85,000	35,000	50,000	

コンソーシアム単独負担で実施する事業							
事業名	事業主体	事業期間		交付対象 事業費	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		開始年度	終了年度				
①市民生活スマート化事 業	岡崎市	R6	R8	56,500	40,000	16,500	
②行政スマート化事業	岡崎市	R6	R8	10,800	-	10,800	
③モビリティ導入事業	岡崎市	R6	R8	22,800	-	22,800	
計				90,100	40,000	50,100	0
合計				175,100	75,000	100,100	0

(参考)その他の国の補助事業により実施する事業							
事業名	事業主体	事業期間		交付対象 事業費	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		開始年度	終了年度				
				0			
				0			
				0			
				0			
				0			
計				0	0	0	0

## 4-1. 事業別概要

### スマートシティ実装化支援事業により実施する事業

事業名: 土地利用促進スマートデータ提供事業

#### ①実装概要

実証事業にて検証する内容

R6: 不動産事業者「構想計画」や自治体「基本設計」への活用を例に、繰返し必要となる合意形成や各検討への活用実証を行い、有償購入するニーズを把握

R7: 建築条件と現状データから、再開発後の人流・車流を自動でシミュレーションするサービスを構築し、実装を見据えたコストカットを検証

・街区選定とテナント誘致への活用実証を行い、不動産事業者のニーズに沿うことで、需要家を広く獲得していく実装後の将来に向けて準備を進める。

R8: 本格実装に向け、サービス提供におけるコンソ内での役割分担、体制、価格設定などビジネスモデルの構築を行う。

・サービスの安定稼働に向けてユーザー・ニーズのさらなる掘り起しを行う。

実装する都市サービスの内容

市が取得するデータを、公・民が土地利用を検討する際の基礎データとして提供できる仕組みを構築。提供データにより、土地利用の各主体が手軽にシミュレーション等、デザイン・設計の検討を行えるようになる。

実装の定義: 公民土地利用があればいつでもデータが提供できる状態

#### ②事業主体

実証事業主体: 岡崎スマートコミュニティ推進協議会

実装主体: 岡崎市

実装後の運用主体: 岡崎市

実装後の維持管理主体: 岡崎市

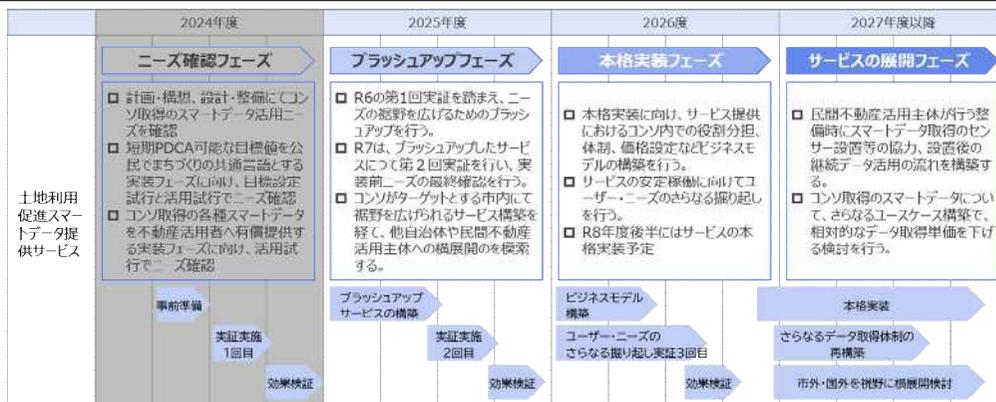
#### ③総事業費及び費用負担

実証事業: 総事業費105,000千円 (国105,000千円)

実装: 総事業費6,000千円 (市)

実装後の運用・維持管理: 年間6,000千円 (市)

#### ④実証事業から実装までのスケジュール



## 4-1. 事業別概要

### スマートシティ実装化支援事業により実施する事業

事業名: 土地利用促進スマートデータ提供事業

#### ①実装概要

実証事業にて検証する内容

R6: 短期周期でモニタリング可能な目標設定をスマートデータで設定、短期対策試行で、有効性を検証

R7: 【自主事業】前年度設定の目標項目・目標値に対して事業実施によるインパクト確認し、精査・見直し

R8: 各種コンソ保有データ提供の有償・無償整理を行いつつ、商圈分析を含む出店誘導のためのデータ活用ノウハウを構築

実装する都市サービスの内容

スマートデータによる目標設定と、短期周期で進捗管理できるダッシュボードを構築。目標設定は、都市再生後の期待人流、新たな来街者ターゲット設定、これに合わせたコンテンツ設定等をロジックツリーで数値化する。

実装の定義: 設定目標をモニタリングしながら各会議で継続使用

実装により達成すべき指標: 当該目標モニタリングによる次策検討回数(年2回)

#### ②事業主体

実証事業主体: 岡崎スマートコミュニティ推進協議会

実装主体: 岡崎市

実装後の運用主体: 岡崎市

実装後の維持管理主体: 岡崎市

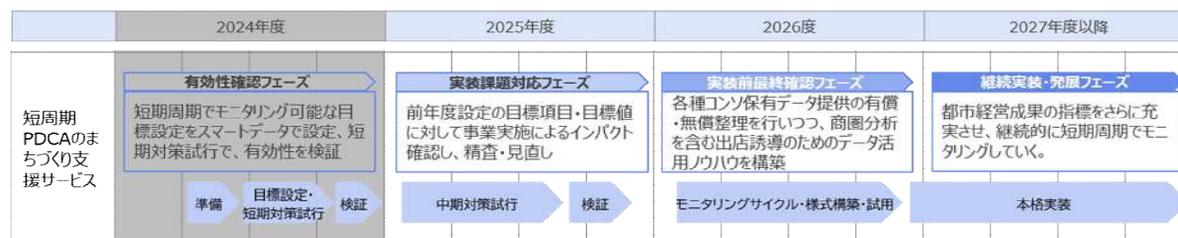
#### ③総事業費及び費用負担

実証事業: 総事業費15,000千円(国15,000千円)

実装: 総事業費4,000千円(市)

実装後の運用・維持管理: 年間4,000千円(市)

#### ④実証事業から実装までのスケジュール





## 4-2. 事業別概要

### コンソーシアム単独負担で実施する事業

事業名: ②行政スマート化事業

行政のスマート化にかかる各事業で岡崎市DXビジョンに位置付けられた事業

事業内容: (実装) 車載センサーによる道路異常箇所発見

事業主体: 岡崎市

実施期間: R2～

総事業費: 約7,000千円/年

事業内容: (実装) 人流データ取得のAIカメラ保守

事業主体: 岡崎市

実施期間: R2～

総事業費: 約3,800千円/年

施策No	2-1-6	基本方針	2	デジタルでスマートになる行政	基本戦略	2-1	デジタル技術の活用による効率的な行政運営
施策名	道路点検業務におけるAIの活用			所管部署	道路維持課		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の公用車にセンサーを搭載し走行することで道路異常を自動検知する。</li> <li>デジタル地図を活用した維持管理システムの導入検討。</li> <li>現場パトロールの作業報告書の自動作成を可能にする。</li> </ul>						
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>振動検知・画像解析により道路異常を正確かつ早期に発見し、早急な対応を可能にすることで重大事故を未然に防止する。</li> <li>システム活用に伴い蓄積された道路異常検知データの傾向を分析することで、効率的な維持管理計画の策定が期待できる。</li> <li>事務職員、現場業務員の円滑な情報共有及び作業性の向上。</li> <li>作業報告書の自動作成によるペーパーレス化。</li> </ul>						
実施状況及び今後の取組方針	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)		
	美証実験 システム導入検討	本格導入(道路異常検知・維持管理機能) 作業報告書自動作成機能 の追加検討	システム活用を前提とした道路点検業務の業務手順・体制等の改善 蓄積されたデータを活用した効率的な維持管理計画の策定				

施策No	3-2-5	基本方針	3	デジタルを活かせる地域社会	基本戦略	3-2	デジタルを活用できる地域社会
施策名	スマートシティの推進			所管部署	デジタル推進課 事業関係課		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマートサービスやセンシング機器から得られるデータの活用により、まちの利便性を高めるとともに、人流・車流・イベントなどの都市密度をはじめとするデータをモニタリングしながら、「賑わい増加と渋滞緩和の両立」などの課題解決に活用し、まちづくりの高度化を進める。</li> <li>まちなかウォークラブル推進を軸に、観光業、観光、交通、防災など、多分野で都市のスマート化を推進する。</li> <li>スマート技術の実装だけでなく、国費の活用または民間資金による実証事業についても積極的に誘導し、一歩先の都市を体現する取組みを推進する。</li> </ul>						
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市の開発は、ミクロエリアでは30年～50年に1度の貴重な機会であり、作った瞬間から古くなっていくまちではなく、スマート技術とデータの活用で継続的に進化させるまちづくりを行うことができる。</li> <li>都市のスマート技術実装、ウォークラブル推進、実証事業の誘導等を通じて、民間の不動産投資、イベント開催、出店誘導など、都市機能誘導領域にふさわしいエリア価値の向上が期待される。</li> </ul>						
実施状況及び今後の取組方針	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)		
	データ活用検討	データ活用推進の構築	データ活用の推進	賑わい増加と渋滞緩和の両立 国費等による実証事業の誘導			

## 4-2. 事業別概要

### コンソーシアム単独負担で実施する事業

#### 事業名:③モビリティ導入事業

#### 移動のスマート化にかかる各事業で岡崎市DXビジョンに位置付けられた事業

事業内容：（実装）「ちょいそこ（アイシン）」を活用した移動支援

事業主体：岡崎市

実施期間：R2～

総事業費：約8,000千円/年

事業内容：（実証）「デマンド交通」

事業主体：岡崎市

実施期間：R5～

総事業費：約14,000千円/年

施策No	3-2-6	基本方針	3	デジタルを活かせる地域社会		基本戦略	3-2	デジタルを活用できる地域社会	
施策名	次世代モビリティの活用促進						所管部署	デジタル推進課 事業開発課	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MaaSシステム・アプリを核とする自動運転モビリティ、グリーンスローモビリティ、パーソナルモビリティ、ドローン等を活用し、移動に関する多様な課題の解決にチャレンジしていく。</li> <li>・移動に関する課題は、生活移動支援、交通安全、福祉、まちづくり、観光、回遊促進、渋滞対策、環境など多岐にわたり、また市内中心部、周辺部、中山間部といったエリアによっても特性が異なるため、これらを整理して合致する面の支援制度を積極的に活用していく。</li> <li>・本事業は、地域公共交通計画の位置づけを前提としたものであり、既存交通手段との役割分担、棲み分けに十分配慮して積極的に推進していく。</li> </ul>								
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MaaSシステム活用の促進が、地域デジタル化や市民のデジタル活用による利便性向上など成果の実感に繋がる。</li> <li>・移動に関する課題へのアプローチを一つのきっかけに、多分野の課題を合わせて解決していくことによって、都市の持続可能性が高まる。</li> <li>・地域が一体となって主体的な課題解決を図っていくためのきっかけとなる。</li> </ul>								
実施状況 及び 今後の 取組方針	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)				
	課題・エリア特性の整理								
							実証実験・試行導入		
							実装課題整理・実装		